

なるフィオーレ喜連川人vol.39 小森卓司

3年前の敬老会では見事な尺八演奏を披露し、参加された皆さんを楽しませてくれた小森卓司さん。尺八歴は8歳からという筋金入り。

戦時中、軍人の間では尺八が盛んだった。出身地、北海道には第7師団があり、お父様は仕事の傍ら将校を相手に尺八の指導をしていた。大勢の将校が制服、制帽、軍刀を提げて稽古のため、そろって家へやって来るその光景に小森少年は圧倒された。そんな環境も手伝って、自然と自身も尺八を手にするようになった。最初は見よう見まねだったが、どんだんのめり込んでいった。

「中学生の頃、あまりに尺八ばかりで勉強しない自分を見かねて母親が尺八を隠しちゃったの。そうしたら今度はそれを延々と探すから結局勉強せず、とうとう最後には隠していた尺八を出してきてくれました(笑)」

その後、進学のため上京



あすなろ尺八物語
〜尺八歴72年、
一生涯の趣味

text by
大河原千晶



3丁目
小森卓司
TAKASHI KOMORI

すると、琴古流尺八の江雲会宗家入門。さらに大学では尺八部も創設し、仲間と活動を開始する。振り返ると勉強やバイトよりも尺八に打ち込んだ。もちろん就職後も続け、29歳の時には宗家の代稽古を務めるようになる。指導する立場の経験が活き、現在も自宅で尺八を教えているが、生徒の一人はアメリカ人の青年。毎回フィアンセと伴に稽古にやってくる。彼女もアメリカ人だが、彼の稽古姿を横目に小森さんの奥様と書道をしたり、英会話を楽しんでいる。

「80歳を迎えて我が家にもようやく国際交流が生まれました(笑)」

海外の若者に尺八を通じて日本の文化を伝えること

ができる。ここまで長く続けてきたからこそ成せる。

習い始めて何年か経ったある時、尺八の音と自分が「一体になった」と感じる瞬間が訪れた。その時の感覚がやみつきになった。「なんとかしてその感覚になりたい！」その想いが自身を尺八へと向かわせた。

「不器用な私は思うように上達せず悶々としています。でも不器用だからこそ、ここまで続けてこれたのです。あすなろの木がヒノキになろうとがんばっているように私も毎日時間がゆるせば何時間でも練習しています」

小森さんの願いは一日でも長くこのフィオーレで尺八を吹き続けること。高齢になっても住み続けるために欠かせない交通問題は、小森さんにとっても専らの関心事である。ある一覽表を見せてくれた。そこにはずらりと数字が並んでいる。このエリアを走る公共交通の自作の時刻表だ。

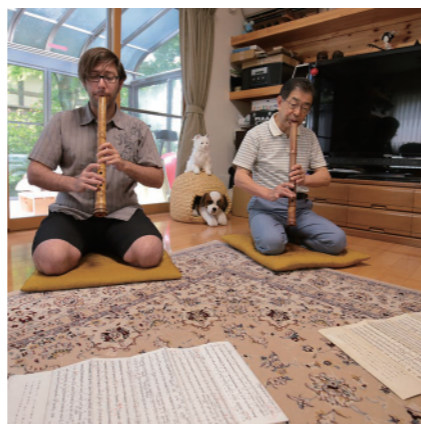
「乗り換えを駆使したり、タクシーと抱き合わせれば、マ

イカーを維持するよりもずっと安価で過ごせます。デマンド乗合タクシーは個人的に使い勝手が悪い。何時に目的地に着くかわからないから。私のように、こうやって東野交通や温泉バスなどを組み合わせる方がいいと思う人もいることを知っているほしいな」

病院や駅までの移動にはこの表が欠かせない。

「私は四季折々の自然も楽しめ、木々の気持ちいいフィオーレの環境がとても気に入っています。もし移住を迷っている人がいたら、お会いにおすすめますよ」

自身の健康、そして何より奥様の健康を第一に「あすなろ」は「ヒノキ」を目指す。今日も力強い尺八の音色がここフィオーレに響き渡る。



アメリカ人青年のデレックさんとの稽古の様子

道の駅きつれがわ隣(水辺公園)に
観光やな誕生!!

2017.8.5 OPEN

8月のお盆過ぎ
落ち鮎とよばれる
産卵のために川を下る
鮎がかかる

What is "YANA"??

▼やなとは
川をV字型にせき止め
流れを集めた場所に、
編んだ簾を設け、下流
に下る鮎などを取る仕
掛けのこと。
観光やなでは、つかみ
取り体験や新鮮な魚
を食べたりできる。子
供が安全に水遊びで
きる場所として利用さ
れる場合も多い。

近頃のテントでは
活きの良い鮎を串刺し
にした塩焼きや鮎めし
が味わえる。来年は
建屋が道の駅内にでき、
さらにパワーUP!

みんなで遊びにきてね!!

028-686-5159 (喜連川漁業生産組合)
住 | さくら市喜連川4196
料 | 無料 期間 | 10月末まで
営業 | 土日祝日のみ ▼やな開放時間▼
第1回 11:00-12:00
第2回 13:00-14:00
第3回 15:00-16:00